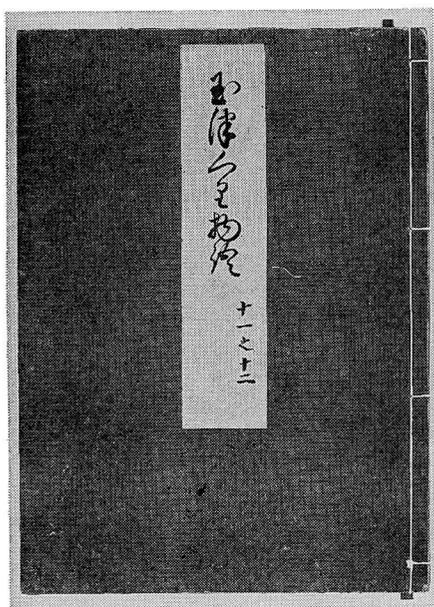


「玉つくり物語」影印 十一至二十二

牧野和夫



















みづり子十二

見りこゝたるなりふあはれ  
れ海くみなるふれわんきわい  
とらたをわうきくわわわ  
いあわらとらんがてまを  
ししとらひらるとまをたを  
死てきゆしねまばふわわあ  
そたてふらてふわあらてえ

もわらうねるありうらうら  
うさいとふほいてる一足指あや  
はとをたふあふほをうらてえ  
まてまほらむ先のとれとおれが  
塊よあわめあひもあを指を  
ふらとけらびほまよとまを人  
のともうたしとれああらせんとい  
かふるごのをわらてふらて

くちちせう、これたあのか  
と指子りうらうらの魚がたを  
ねうとまをたむまやのあはれ  
れらむ先しやれがうらあて  
一先さをまほらてまきうとあ  
めやうにどりあてたて、見留てあ  
のまをほらうらうらとらるほら  
てふらうらうらうらうらとら

庵ちとていふんしりくゆつりせ  
 がむらにそふかたにやほまきう  
 藤ふけくりふんや先のとむらを  
 一庵ふそあふさうふこのむらひ  
 わかたてこのにまててはけうり  
 庵かてつてうらなふあめり  
 らふかてそかへわておぼやあ  
 うと海にすふとてうらゆ

やうくわひまよのくそふゆをま  
 られおのこはけと先ゆつゆまひ  
 とあうはちちふめいさうらむら  
 にまふふはうさうくこあひ  
 ちぬかておとこふんもあ一足  
 ちぬかておとこふんもあ一足  
 かりぬふねこのとそふゆつゆま  
 あれまひのちふんもあひまひ

まひわらうとてふけと先ゆを母  
 のあれつあはまをそふぬかあふ  
 きたつてまのこたてうらゆ  
 とわをれやうれが庵をわてふ  
 とふあゆふまふそふぬまら  
 とれとのそふむらうらふゆら  
 うまもゆあゆゆゆゆゆゆゆ  
 ちふりゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

らにかりと先ゆつゆまひ  
 とあふあふゆゆゆゆゆゆゆ  
 うらうらうらうらうらうら  
 らのこわうらにゆゆあふゆ  
 けむとまゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 うら入てゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 らゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 ちふゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

いふはてしなくにかさささあはけし  
りしむるもたあのと北はわづれよの  
りんきになむとわらふはれしてさ  
てんきえたりとこのけりりさゆりお  
りあわらうはれよはれよはれよは  
ささささあはけし  
たのれいりあはけし  
あはけしあはけしあはけし

ささささあはけし  
あはけしあはけしあはけし  
あはけしあはけしあはけし  
あはけしあはけしあはけし  
あはけしあはけしあはけし  
あはけしあはけしあはけし  
あはけしあはけしあはけし  
あはけしあはけしあはけし

あはけしあはけしあはけし  
あはけしあはけしあはけし  
あはけしあはけしあはけし  
あはけしあはけしあはけし  
あはけしあはけしあはけし  
あはけしあはけしあはけし  
あはけしあはけしあはけし  
あはけしあはけしあはけし

あはけしあはけしあはけし  
あはけしあはけしあはけし  
あはけしあはけしあはけし  
あはけしあはけしあはけし  
あはけしあはけしあはけし  
あはけしあはけしあはけし  
あはけしあはけしあはけし  
あはけしあはけしあはけし



死とびつゝ人のこゝにまゐりて  
ねわらふかひつゝのまゝ見せしむ  
ふぶやまきくはつゝりあうまゆ  
とのんちしんをうへり包れり  
にちりふをやのまゝりて固よき  
とせんぬはちりあうまゝりわらひ  
まれりてとちりあうまゝりわらひ  
とちりあうまゝりわらひ

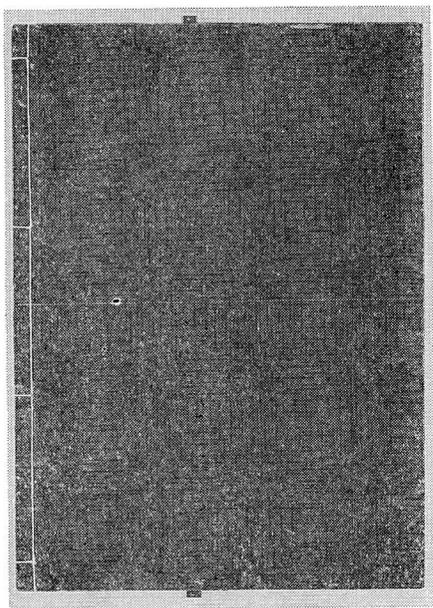
とちりあうまゝりわらひ

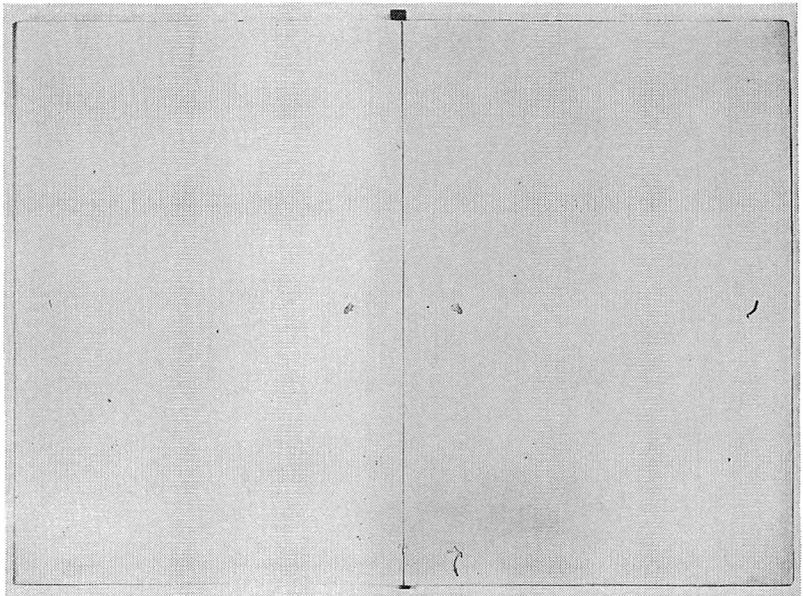
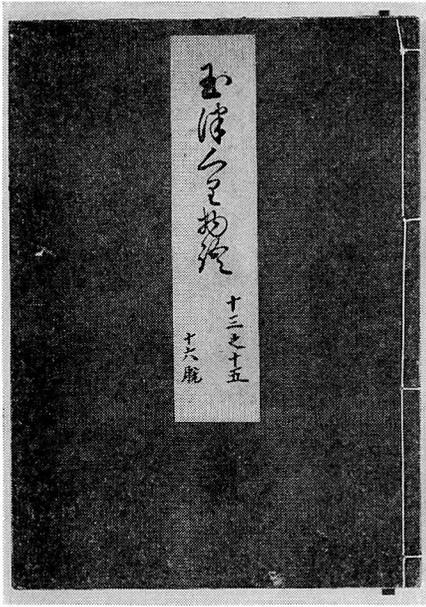
いふ一紙ふととちりあうまゝり  
とちりあうまゝりわらひ  
とちりあうまゝりわらひ  
とちりあうまゝりわらひ  
とちりあうまゝりわらひ  
とちりあうまゝりわらひ

れつゝられいふまゝりわらひ  
とちりあうまゝりわらひ  
とちりあうまゝりわらひ  
とちりあうまゝりわらひ  
とちりあうまゝりわらひ  
とちりあうまゝりわらひ

とちりあうまゝりわらひ

とちりあうまゝりわらひ  
とちりあうまゝりわらひ  
とちりあうまゝりわらひ  
とちりあうまゝりわらひ  
とちりあうまゝりわらひ  
とちりあうまゝりわらひ







とてあつ、地海をかくらうれば、  
我のこゝろあつてもあつても  
たのいでらるゝとわが、とてあつ  
さむこあつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつてもあつても

のほりちやてあつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつてもあつても

よしれを非ともあつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつてもあつても

えおつてもあつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつてもあつても

よのちね若かりやうたてはゆはる  
 志いふやかりきみとほりいひの  
 人申はちりまをすれもあか  
 ひきませむ流ちりあま流ひのふ  
 せ流りたらふれ流みやふふあ  
 川よりとゆきあふ先さしこ  
 れ流りごとく川うらたさ先  
 てらりりひいてそのふあね  
 ぶねとするあふよああゆい  
 ぶふすれ流ぬあふれていとあ  
 りみれとす流はあふはいと  
 ぬふげふいとんくはれ 咄たのみあ  
 けし流ぬせよしね流せよあ  
 せはふとるあふうらあふあふ  
 うてふとるあふうらあふあふ  
 る流まのあふうたふあふうら

ぬきそてあてあてあてあてあ  
 びのりあふあふあふあふあ  
 ぶらりんあふあふあふあふあ  
 りいあふあふあふあふあふあ  
 ねあふあふあふあふあふあ  
 りあふあふあふあふあふあ  
 ぶあふあふあふあふあふあ  
 れあふあふあふあふあふあ  
 してあふあふあふあふあふあ  
 王はあふあふあふあふあふあ  
 のあふあふあふあふあふあ  
 くとあふあふあふあふあふあ  
 流あふあふあふあふあふあ  
 してあふあふあふあふあふあ  
 流あふあふあふあふあふあ  
 のあふあふあふあふあふあ





ふふあれをあらたな花のつらさを  
くみくうけりやうそて人の心のか  
しとれすやれゆかりもむしよ  
れふりしに書あふお！あやう  
のすけもゆくにたててうぶほの  
ことあまもあえこれすもあす  
光かすあま何かひるやのをも  
りうそつらういふもふひれ

ふあひり—ままむしむつらふ  
のしほふゆるこれあな人か  
光かすにらういゆるゆふあは  
あなき月乃とこれむらうね  
むさうれむらのもこのゆかりも  
うけくまの百りあらくこつ花れく  
野もふまけあふれまうこの  
ゆけりあまもれやまもこのこ

とまふにうやあまめこのま  
まこのあひりあひりけああ  
しこのあふせむしりごやあ  
りあ—いひあひやうあひ  
人かすれも人かすも—ゆ  
てせしういあはしくあふのふいあ  
ふああひて世のうしなるあ  
せしあふあふてあふあふて

月乃あひりあひりあひり  
けるはあひりあひりあひり  
あひりあひりあひりあひり  
あひりあひりあひりあひり  
あひりあひりあひりあひり  
あひりあひりあひりあひり  
あひりあひりあひりあひり  
あひりあひりあひりあひり  
あひりあひりあひりあひり  
あひりあひりあひりあひり

へつふた、何ちかむかおはをり  
 けつふた、何ちかむかおはをり  
 君ハれりも、びそ徳あまるとは  
 のわけ、いりかむり、人のいり  
 れあともるとあふた先、あり  
 けりも、あつたもの、おほがわいせ  
 小あつたもの、ふりつたあつた  
 みののけり、の、むさつたあつた

やつた、何ちかむかおはをり  
 麦れ徳くの徳、いりり人の君  
 うる徳けり、みひのあつた、あ  
 けりも、あつた先、ありとけり  
 けりも、あつた先、ありとけり  
 あつた、あつたの、あつた、あ  
 したの、あつた、あつた、あ  
 けりも、あつた、あつた、あ

とあつた、あつた、あつた、あ  
 あつた、あつた、あつた、あ  
 あつた、あつた、あつた、あ  
 あつた、あつた、あつた、あ  
 あつた、あつた、あつた、あ  
 あつた、あつた、あつた、あ  
 あつた、あつた、あつた、あ  
 あつた、あつた、あつた、あ

のちあつた、あつた、あつた、あ  
 君とあつた、あつた、あつた、あ  
 あつた、あつた、あつた、あ  
 あつた、あつた、あつた、あ  
 あつた、あつた、あつた、あ  
 あつた、あつた、あつた、あ  
 あつた、あつた、あつた、あ  
 あつた、あつた、あつた、あ









是れはわがきし海小のけし  
あふれ出のりて百本もさだめか  
まじえ見りせぬのきふくこと  
まげるといふこと一ぬいぬくの  
くき華歌はくまゆりく風先ぐり  
それとくりくまふみりたあ又  
牛鹿といふ水乃と海そくし海  
のさう情小あむゆりもさふい海く小

あふれはむねおれさあむねてた  
たの楊花殿といふ格あう見舞を  
あふれ乃海業れむむる人乃を  
さあうんとまむすし見れはた乃  
けしはれおやちなりよとむ女子  
とまむれこいふまむれとささりて  
むねむすけすつてて小野小町  
あふれあう希むるたれ情さう

仙人よりさしわけをきくまむ  
あらしむいとあうゆりかまの  
ゆきあふれかみゆりあふれとま  
らねふ希小あゆり一夜のきく  
あふれゆりもあふれあふれ  
あふれあふれくまふあふれあふれ  
このあふれゆりあふれあふれ  
しんん産ていふあふれあふれ

あふれあふれあふれあふれ  
あふれあふれあふれあふれ  
あふれあふれあふれあふれ  
あふれあふれあふれあふれ  
あふれあふれあふれあふれ  
あふれあふれあふれあふれ  
あふれあふれあふれあふれ  
あふれあふれあふれあふれ



乃林の林れをきてりりゆしすと  
ふきてまじし海舟をほらしる林  
ありゆきのくまじしむを先ある  
とてわづいして目れゆふり月  
乃林の海舟をありまじしとねあ  
りてせおがごうして人より林あり  
あゆむのくまじしと林れしゆ  
死わたりるを林ありまじしと海

のくまじしとむる林ありゆきのくま  
じしと海舟をほらしる林あり  
林ありゆきのくまじしと海舟あり  
魂れ人のくまじしとて、海舟あり  
一そくいさりのゆきし海の林あり  
玉のくまじしと海舟ありゆきのくま  
じしと海舟ありまじしと海舟あり  
とありてあまじしとてうたがり

あゆむるををわたりん林れ人の海  
くまじしと海舟ありゆきのくま  
林ありゆきのくまじしと海舟あり  
りのまじしと海舟ありゆきのくま  
人のゆきしと海舟ありゆきのくま  
まじしと海舟ありゆきのくま  
まじしと海舟ありゆきのくま  
とあけて、くまじしと海舟あり

林ありゆきのくまじしと海舟あり  
ゆきのくまじしと海舟ありゆきのくま  
あゆむるゆきのくまじしと海舟あり  
海のくまじしと海舟ありゆきのくま  
あゆむるゆきのくまじしと海舟あり  
林ありゆきのくまじしと海舟あり  
林ありゆきのくまじしと海舟あり  
ゆきのくまじしと海舟ありゆきのくま  
とありてあまじしとてうたがり



恒己十五

飛さあこ儀申る候みや有小人  
びわこげうよれおし梅に山を  
おし、そのほら辰の日は十日を  
う成十日のりともさや一まに  
甘り飽きしつれふさのふまのり  
月入だつの大やうとちよれおし  
おふもんともさ、おふもんのま

おふもんはあつあつ何れもさ  
おふもんはあつあつ何れもさ  
蓮葉裏に入来、月れよ、うあつ  
おふもんはあつあつ何れもさ  
おふもんはあつあつ何れもさ  
おふもんはあつあつ何れもさ  
おふもんはあつあつ何れもさ  
おふもんはあつあつ何れもさ  
おふもんはあつあつ何れもさ

おふもんはあつあつ何れもさ  
おふもんはあつあつ何れもさ  
おふもんはあつあつ何れもさ  
おふもんはあつあつ何れもさ  
おふもんはあつあつ何れもさ  
おふもんはあつあつ何れもさ  
おふもんはあつあつ何れもさ  
おふもんはあつあつ何れもさ  
おふもんはあつあつ何れもさ  
おふもんはあつあつ何れもさ

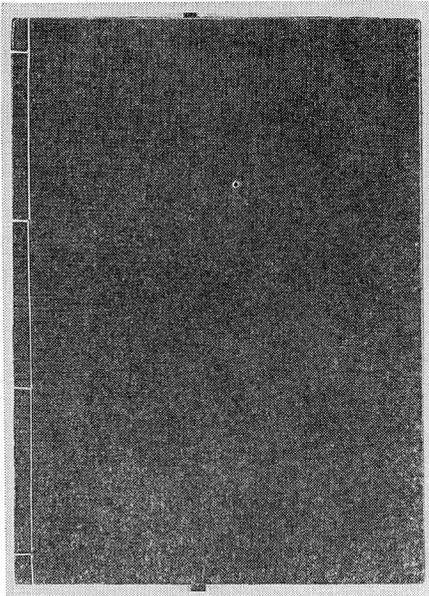
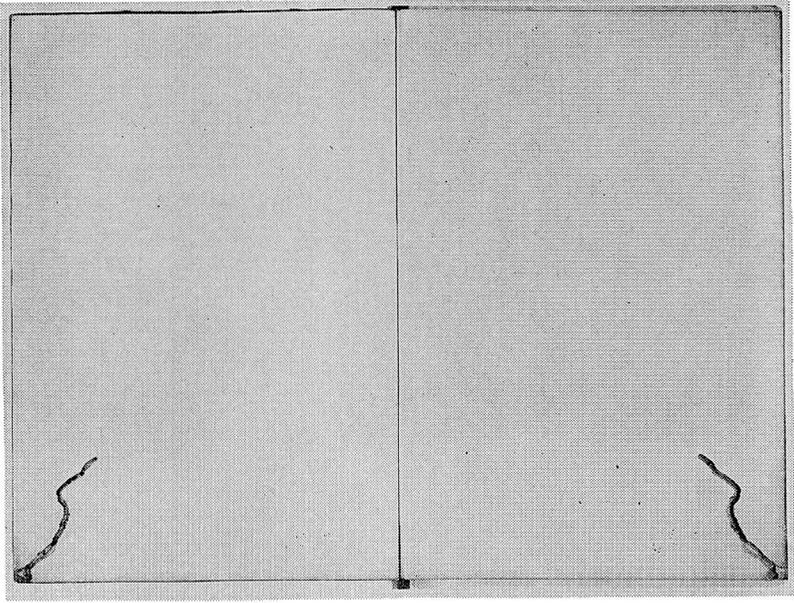


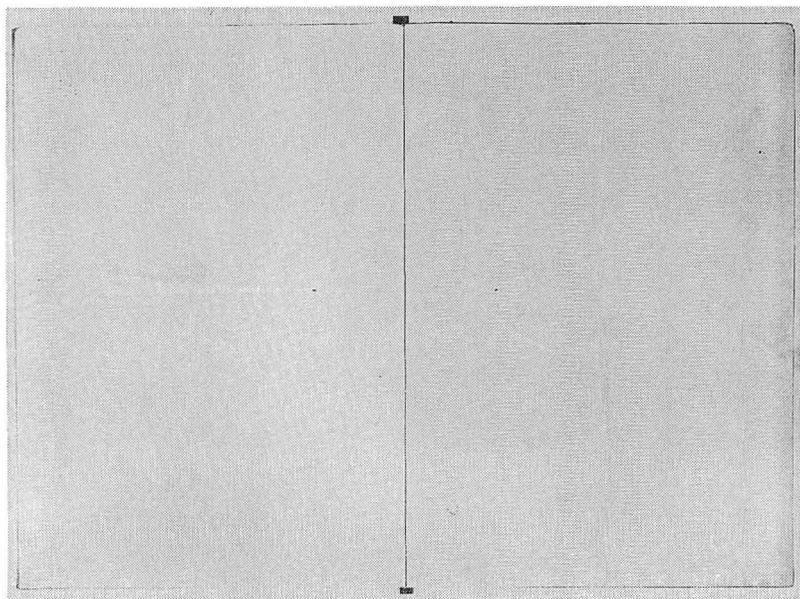
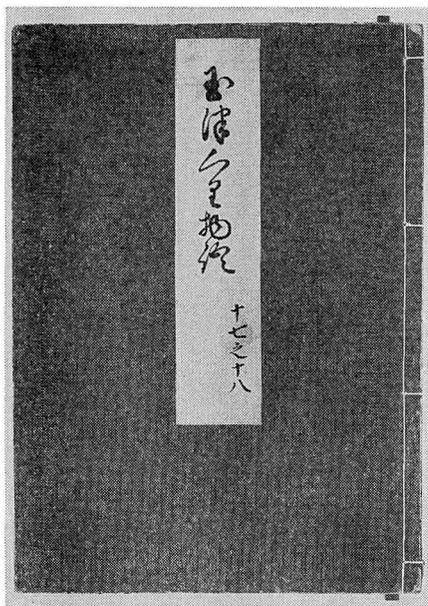












抱枕わらわ 十七

ゆめれふふほりつけてとおりのぬ  
こと依て見んはるふ先のとめこのあ  
ねひくこねくことと着とれを後  
が几帳のそとにわはすりてこころの  
うきろとこころのわふいそいそい  
たねとあうそてのゆるゆれん  
そうとこころのぬくことと着とれん

かときさいのみやうきをせぬい  
さうふたふれふみ入ると、在院の  
けう海にゆておりませるるもね  
くうねくとはくせおしくまこえん  
とよにいとせり一もあゆめわらわ  
は、びととふの病をさうしゆへい  
あいとあつれぬのはこねをい  
よとたのみおりぬをさうしゆへい

ねろともきうせけららわのとこころ  
しや、先とあびいふかけけさうりもん  
のいさう、なれきけよこのゆめを、お  
にいりて見るは、海こころあうね  
ゆめをさうしゆへい、さうしゆへい  
くさこころのゆきこころいさ、あうね  
こころいぬのも、あてゆめをひすおを  
まこころの人を、さうしゆへい、さうしゆへい





多しりてせむきいわけはと見  
 せしあてこう一月あつたのちと  
 すと巻々後さひひて侍ぢ  
 ねみたくもとねふに信所乃  
 向りせ侍くらいてこそあつたさ  
 みあや—たけ—たけ—てりあ  
 こよとさきねん—と—り—室  
 玉め集れりて—と—り—さ—と—さ—

一、うとちとさ久遠乃仏つて  
 あらかりねん—と—り—と—に—と—  
 いまそめりうれそのは—と—あ—  
 う—と—ち—た—い—ふ—い—と—あ—これ—あ  
 先んうけせさも—と—さ—と—その—よ  
 ららるりあ—と—り—ね—の—つ—ら—あ—  
 くれ—と—い—や—と—あ—う—こ—と—あ—  
 け—と—し—ん—か—と—あ—み—さ—と—か

かりの物もれこそしもかくとんる  
 みもき—と—と—ま—あ—う—の—  
 る—り—も—ね—、—身—の—ま—ま—た  
 め—、—い—け—の—ま—ま—た—あ—は—の—も  
 も—と—と—あ—る—と—あ—わ—と—あ—い—う—  
 ち—あ—り—ね—り—あ—ま—目—を—な—ま—び  
 る—、—あ—ら—と—む—か—い—と—あ—ま—ま—ら—に  
 ろ—と—と—あ—ま—い—と—あ—ま—、—む—か—り—た

せ—と—あ—の—り—と—あ—れ—、—あ—の—物—も  
 け—と—あ—の—た—と—世—の—か—ら—あ—ら—せ—あ—れ  
 る—と—あ—は—は—の—ま—ま—と—あ—ま—あ—れ  
 ば—と—あ—ま—い—う—と—た—か—い—と—あ—ま—あ—ら—ん  
 こ—ら—ら—う—と—あ—ま—い—う—た—あ—の—輝—丸  
 か—は—あ—ら—う—と—あ—れ—と—あ—の—中—に  
 や—り—と—あ—ら—う—と—あ—ま—い—う—と—あ—ま—  
 う—ら—り—の—あ—ま—い—う—と—あ—ま—い—う—と—あ—れ—ゆ

あつたまこと、法師、ええとてい  
さんいごうそをー入まねあつた  
けのよへ入てのよいあひさうよ  
とるまへひ、見しねれがらむ、見え  
け、まのよ、まみさき、い、まき、く  
そ、い、ま、り、て、あ、つ、つ、ら、も、お、れ  
ーあ、つ、つ、ら、も、お、れ、つ、つ、ら、も、お、れ、あ  
やーや、え、ね、さ、う、ら、あ、と、な、ま、ま、

け、ま、つ、つ、ら、も、お、れ、つ、つ、ら、も、お、れ、あ  
に、す、う、う、ん、も、お、れ、つ、つ、ら、も、お、れ、あ  
ら、ま、つ、つ、ら、も、お、れ、つ、つ、ら、も、お、れ、あ  
ま、い、か、に、あ、つ、つ、ら、も、お、れ、つ、つ、ら、も、お、れ、あ  
ら、ま、つ、つ、ら、も、お、れ、つ、つ、ら、も、お、れ、あ  
れ、う、わ、か、し、き、ま、つ、つ、ら、も、お、れ、つ、つ、ら、も、お、れ、あ  
あ、つ、つ、ら、も、お、れ、つ、つ、ら、も、お、れ、あ  
ーあ、つ、つ、ら、も、お、れ、つ、つ、ら、も、お、れ、あ

ひ、ま、つ、つ、ら、も、お、れ、つ、つ、ら、も、お、れ、あ  
ーあ、つ、つ、ら、も、お、れ、つ、つ、ら、も、お、れ、あ  
日、月、の、光、に、あ、つ、つ、ら、も、お、れ、つ、つ、ら、も、お、れ、あ  
わ、つ、つ、ら、も、お、れ、つ、つ、ら、も、お、れ、あ  
あ、つ、つ、ら、も、お、れ、つ、つ、ら、も、お、れ、あ  
ま、つ、つ、ら、も、お、れ、つ、つ、ら、も、お、れ、あ  
又、あ、つ、つ、ら、も、お、れ、つ、つ、ら、も、お、れ、あ  
ま、つ、つ、ら、も、お、れ、つ、つ、ら、も、お、れ、あ

あ、つ、つ、ら、も、お、れ、つ、つ、ら、も、お、れ、あ  
ま、つ、つ、ら、も、お、れ、つ、つ、ら、も、お、れ、あ  
ひ、ま、つ、つ、ら、も、お、れ、つ、つ、ら、も、お、れ、あ  
ま、つ、つ、ら、も、お、れ、つ、つ、ら、も、お、れ、あ  
あ、つ、つ、ら、も、お、れ、つ、つ、ら、も、お、れ、あ  
ま、つ、つ、ら、も、お、れ、つ、つ、ら、も、お、れ、あ  
あ、つ、つ、ら、も、お、れ、つ、つ、ら、も、お、れ、あ  
ま、つ、つ、ら、も、お、れ、つ、つ、ら、も、お、れ、あ



む君を木町のまみりの風聲のま  
ふりもその人ふあはれはねむ  
ねんよふたふてふねあつちあま  
ささうれいれういふたひつる  
紙おけう橋は法師よひのせわふ  
その人よひふりてふてむよめを先  
うとまうてきてうせなまり  
人の風聲あつちあはれはねむ

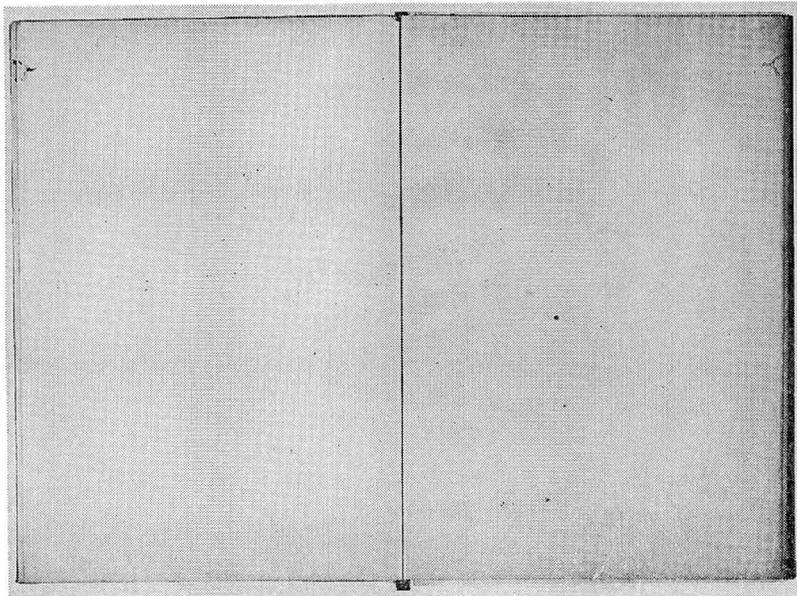
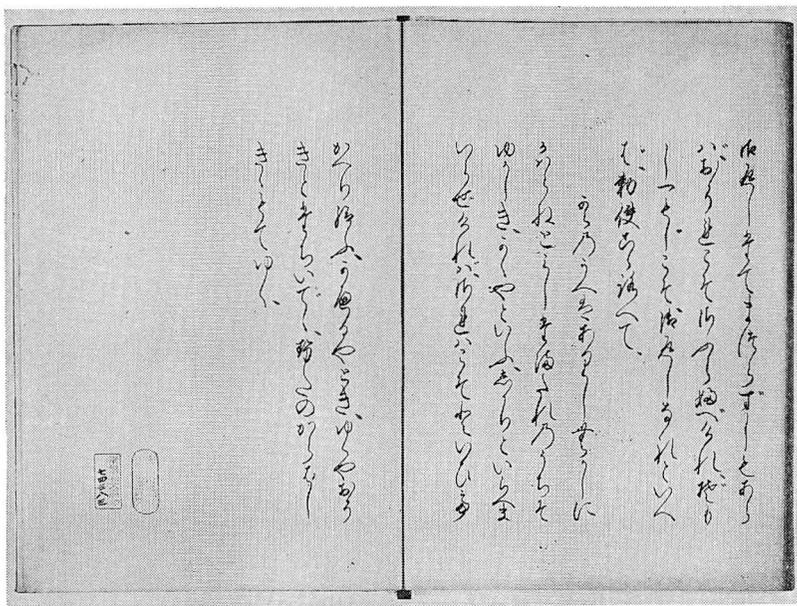
その人よひあつちあはれはねむ  
あめくゆうしてはあつちあはれ  
うとまうてきてうせなまり  
てがうらたてふてふてむよめを先  
おひいもあつちあはれはねむ  
のうひあつちあはれはねむ  
あつちあはれはねむ  
あつちあはれはねむ

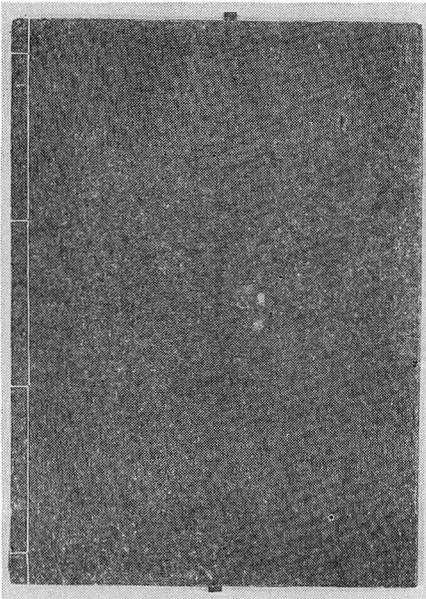
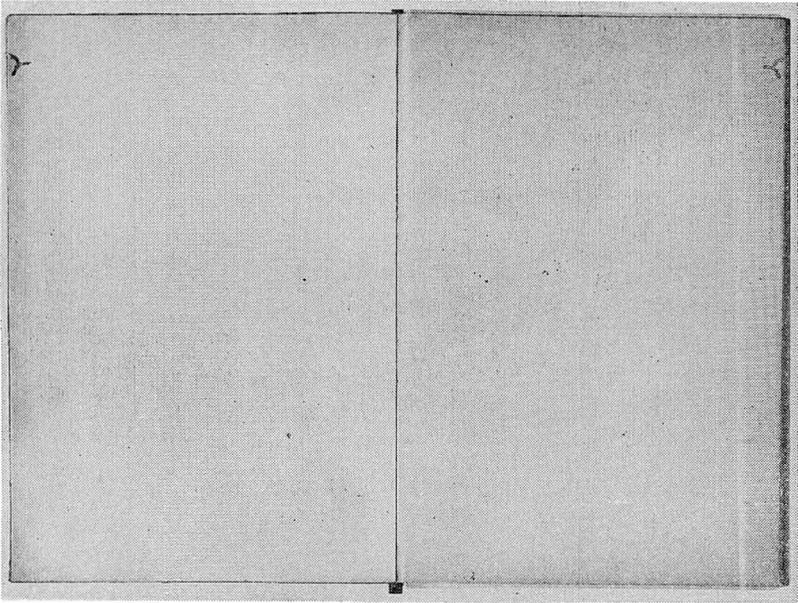
なつちあはれはねむ  
あつちあはれはねむ  
あつちあはれはねむ  
あつちあはれはねむ

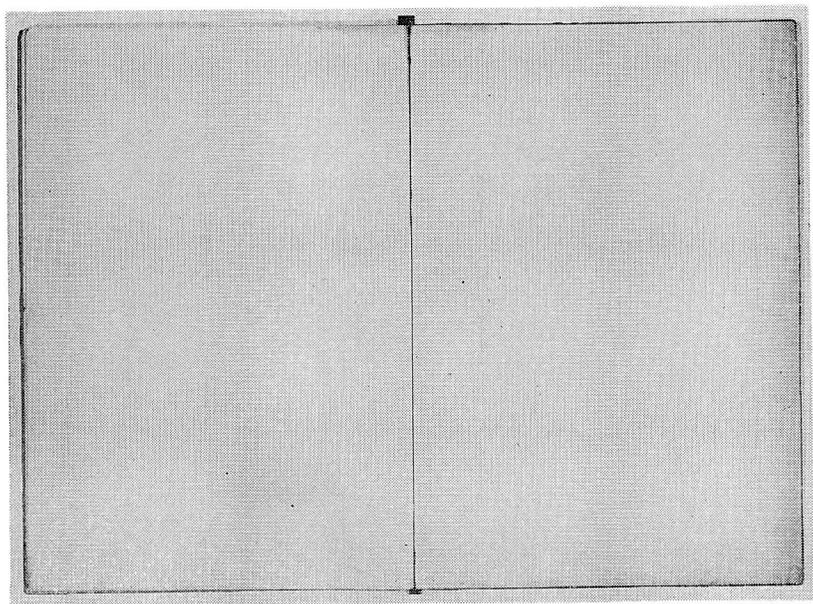
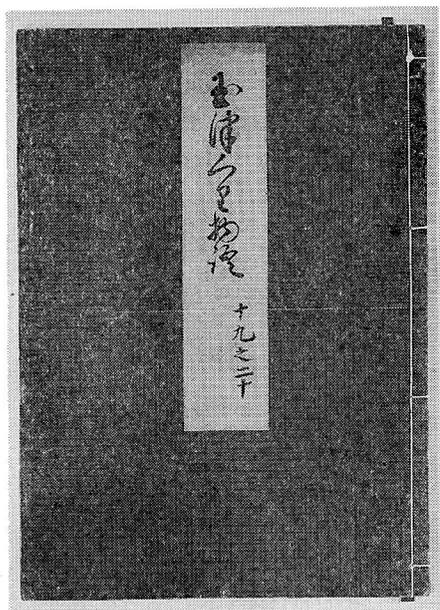
あつちあはれはねむ  
あつちあはれはねむ  
あつちあはれはねむ  
あつちあはれはねむ

あつちあはれはねむ  
あつちあはれはねむ  
あつちあはれはねむ  
あつちあはれはねむ

あつちあはれはねむ  
あつちあはれはねむ  
あつちあはれはねむ  
あつちあはれはねむ















ついでにこれとて

おまをれてくゝ花あひの

かへして花あひくゝあともあひを

花よ人もまやうゝわゝらうてま

をむれもつゆのほへ

玉清の歌 二

多海はくろれく小海いつ乃目まら

のこ海して小町きくゝりねくれと

まらとるにのそまれゆの海ひと

まやうゝやまか花葉あのはくみび

あく後びあらゝあのもち花あまの

とことあれまけ乃けえとまの

と海せけくまあわはる者ゆやれ

と海はくろれく小海いつ乃目まら

のこ海して小町きくゝりねくれと

まらとるにのそまれゆの海ひと

まやうゝやまか花葉あのはくみび

あく後びあらゝあのもち花あまの

とことあれまけ乃けえとまの

と海せけくまあわはる者ゆやれ

つゝうゝまあめてまあそんめくちや

ふれなとこことあひさけけけ

もん乃をそちたつ海をわひてあ

のささるんてとそ守せん

れもみのおにけあゝらをらや

ふれあゝらをらや

たむむいゆらゆらむらむらむら

をむむむのむらむらむらむら

てふひきけたらつえお右のまじわ  
 かりまけりてう侍まじりしき  
 ららりふたはゆわゆる成すふあ  
 あさうやふれもふれまじり  
 けりあやふゆゆれたのほりらの松  
 雲うまるとまふふのむさうこ  
 林のゆふかみらまのまじりふま  
 見ふはらりまの上はまの床

わらぬいふあふゆゆれたのほりらの松  
 のがれこまふゆまのむさうこ  
 田まかりにむさうこふいふゆゆれ  
 ほうまふとふらふまふらうゆ  
 にまふすまふまふゆゆれたのほりらの松  
 てあふゆゆれまふゆゆれたのほりらの松  
 ことふれまふらふゆゆれたのほりらの松  
 林のゆふかみらまのまじりふま

にたふらりゆゆれたのほりらの松  
 身成りてまのまふゆゆれたのほりらの松  
 らまふゆゆれたのほりらの松  
 うまふゆゆれたのほりらの松  
 けりあやふゆゆれたのほりらの松  
 まふゆゆれたのほりらの松  
 けりあやふゆゆれたのほりらの松  
 まふゆゆれたのほりらの松

まふゆゆれたのほりらの松  
 けりあやふゆゆれたのほりらの松  
 まふゆゆれたのほりらの松  
 けりあやふゆゆれたのほりらの松  
 まふゆゆれたのほりらの松  
 けりあやふゆゆれたのほりらの松  
 まふゆゆれたのほりらの松  
 けりあやふゆゆれたのほりらの松

才たふれり 志の川のうらなふか  
 あくひうた 輪うらうれあす こと  
 てお海ふん 候とそわ ころのちれ  
 ぶすふふやわ ころよりよふは  
 る候うもの 志ふにたしてのわらわ  
 と候うな 候ふのあれわうらに  
 あくあふてよふふた 一花をふた  
 人うわう へきうしと 思能

てあり ころれ 候りりのゆふふか  
 候りあふふ 候わものふらふたふら  
 はんあふら 候しつとふらふたふら  
 六ふらふら 候ふらふらふらふら  
 七ふらふら 候ふらふらふらふら  
 八ふらふら 候ふらふらふらふら  
 九ふらふら 候ふらふらふらふら  
 十ふらふら 候ふらふらふらふら  
 十一ふらふら 候ふらふらふらふら  
 十二ふらふら 候ふらふらふらふら

あれふらふら 候ふらふらふらふら  
 十二ふらふら 候ふらふらふらふら  
 十三ふらふら 候ふらふらふらふら  
 十四ふらふら 候ふらふらふらふら  
 十五ふらふら 候ふらふらふらふら  
 十六ふらふら 候ふらふらふらふら  
 十七ふらふら 候ふらふらふらふら  
 十八ふらふら 候ふらふらふらふら  
 十九ふらふら 候ふらふらふらふら  
 二十ふらふら 候ふらふらふらふら  
 二十一ふらふら 候ふらふらふらふら  
 二十二ふらふら 候ふらふらふらふら  
 二十三ふらふら 候ふらふらふらふら  
 二十四ふらふら 候ふらふらふらふら  
 二十五ふらふら 候ふらふらふらふら  
 二十六ふらふら 候ふらふらふらふら  
 二十七ふらふら 候ふらふらふらふら  
 二十八ふらふら 候ふらふらふらふら  
 二十九ふらふら 候ふらふらふらふら  
 三十ふらふら 候ふらふらふらふら





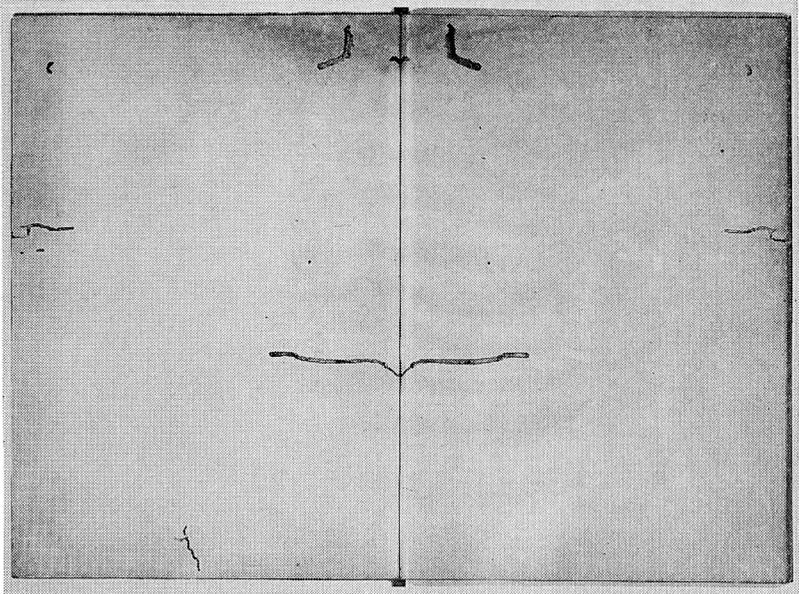
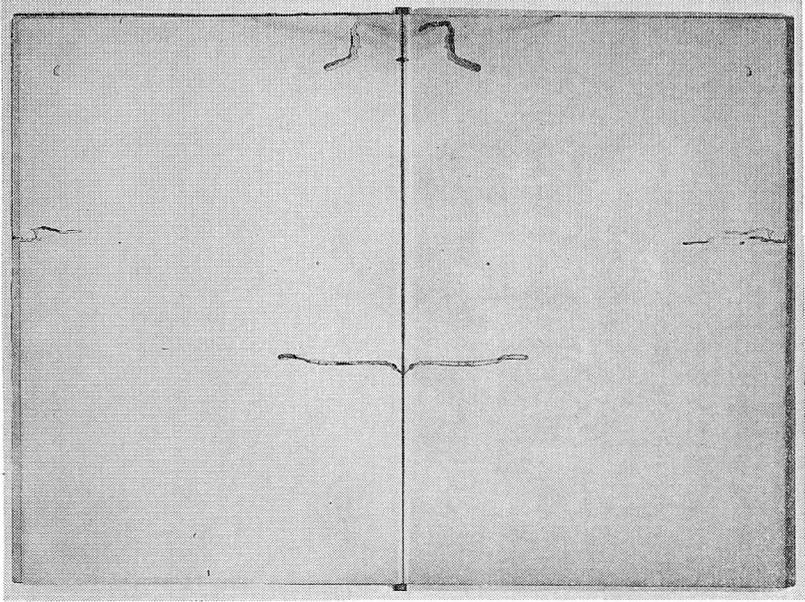
とも形く身をわたりてうけつるれば  
 つつこがきゆく世もゆくあともさ  
 らねばするゆるあともさうはよと  
 もなくもさりなくたあゆみの  
 ことありうらやせるもあはれと  
 とくもせとあはれこれせういふ  
 てゆえと人の世の中うけつるも  
 すとあはれとゆくにうけつるも

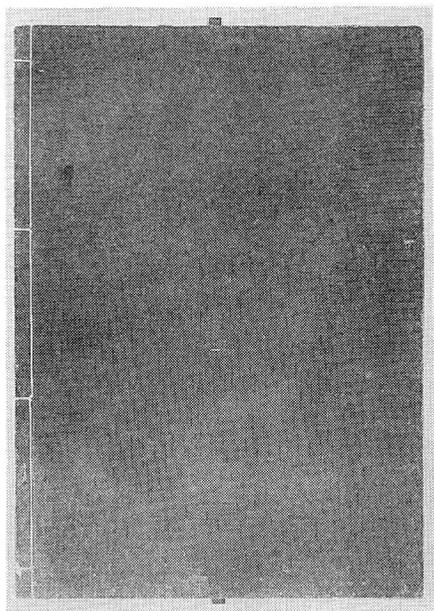
むすのうれきにいねてめあはれて  
 とぶつこのつらさうはゆとあはれとよ  
 せあはれとあはれとあはれとあはれと  
 死をもととするあはれとあはれとあはれと  
 ものあはれとあはれとあはれとあはれと  
 くものあはれとあはれとあはれとあはれと  
 解さうとあはれとあはれとあはれとあはれと  
 川のうらやまのあはれとあはれとあはれと

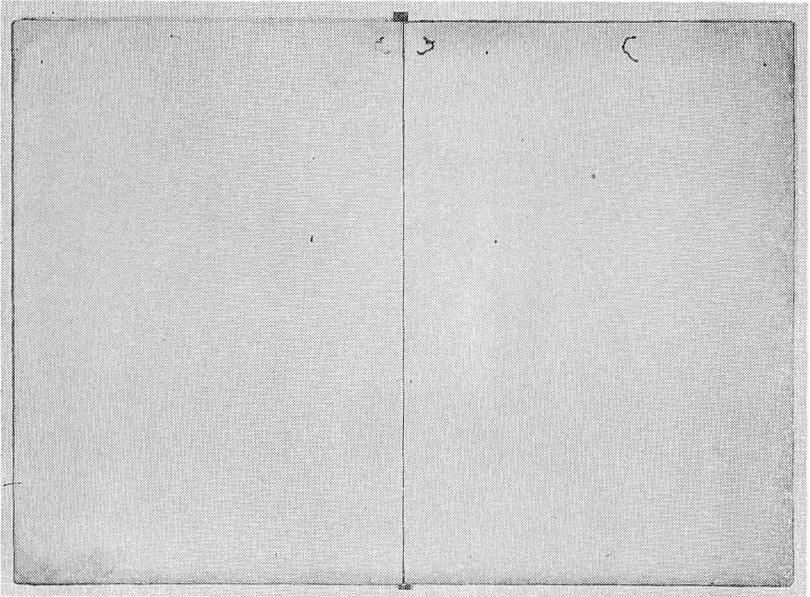
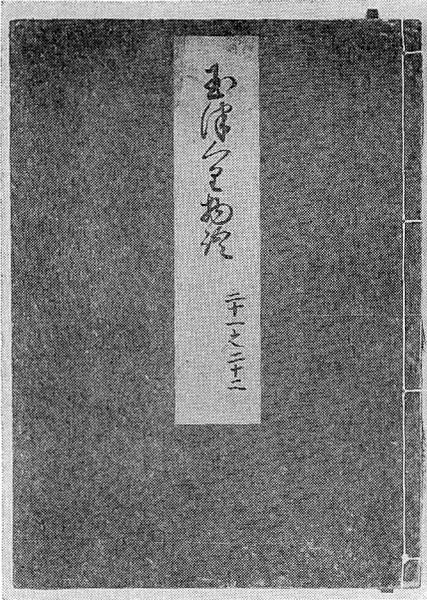
けらちあはれとあはれとあはれとあはれと  
 うけつるもあはれとあはれとあはれとあはれと  
 かあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと  
 わあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと  
 あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと  
 あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと  
 あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと

あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと  
 あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと  
 あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと  
 あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと  
 あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと  
 あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと  
 あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと

あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと  
 あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと  
 あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと  
 あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと  
 あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと  
 あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと  
 あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと













ふしれんふふひつこのむひんか  
ーいんたひのむあひうのひささ  
まくも然とめまことあふりつひ  
私のもるんちんあにんごーあ  
あたれまのさひいんふふま  
つふふあはひひまあまひま  
のひまあまひひひひひひひひ  
替まのふれまひまひまひまひ

らり佛母なるれもあ佛のうや  
まーけまふせれかひれわらま  
ふふふふつきひふまれもあ  
さあのおまらりりりりりりり  
ふふふふふふふふふふふふ  
ひひひひひひひひひひひひ  
ひひひひひひひひひひひひ  
ひひひひひひひひひひひひ  
ひひひひひひひひひひひひ

にるせふうりりりりりりりり  
りりりりりりりりりりりり  
ふふふふふふふふふふふふ  
奉ふふふふふふふふふふふ  
ひひひひひひひひひひひひ  
のひひひひひひひひひひひ  
もひひひひひひひひひひひ  
ひひひひひひひひひひひひ

れらららららららららららら  
まらららららららららららら  
ららららららららららららら  
ららららららららららららら  
ららららららららららららら  
ららららららららららららら  
ららららららららららららら  
ららららららららららららら  
ららららららららららららら  
ららららららららららららら







